

科目名	英語研究演習Ⅱ				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	3 年次
教員名	鈴木 雅恵			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

テーマ：Cross-Cultural Theatre and Translation in the Globalizing World II
(異文化交流としての演劇と通訳・翻訳・観光)

This seminar will be basically conducted in English for the people who are interested in theatre, translation, and guide and interpreting. Theatre, or performing arts in general, are intercultural or cross-cultural in their nature. We will read, watch, and translate plays and also communicate with western theatre practitioners outside the class. Seminar members are also encouraged to take the governmental guide and interpreter test or World Heritage Sites Test.

本演習では、異文化交流の原点は演劇にあるという観点から、英語で書かれた西洋演劇とその翻案作品を中心に扱い、演劇・舞台芸術を通しての国際交流について考えます。最低2回は課外活動として舞台観賞を行い、時には演劇上演のスタッフの経験や海外からのゲストとも交流し、通訳・通訳案内の技術も磨いてもらいます。ゼミ論の核となる部分のまとめにむけて英語で個人発表してもらおう計画ですが、舞台や演劇作品についての研究発表が難しい場合は、自分の異文化交流体験を分析するほか、客観的なデータを集めるためのアンケート調査などの方針についても発表してもらいます。ユネスコ世界文化遺産についても発表でもよいですが、そのためには、世界遺産検定受験の実績が必要です。翻訳をテーマにする場合も、自分で翻訳した作品または資料の実例が必要です。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／スピーチやドラマを取り入れた参加型授業）

プレゼンテーション、スピーチを経験するほか、2回以上の舞台鑑賞やフィールドワークをしていただきます

・実務経験のある教員による授業

通訳・通訳案内士の資格と経験、映画配給会社での翻訳の経験、能及び原語によるシェイクスピア劇を含む舞台経験のある教員によっておこなわれます

授業内容・授業計画／Course description・plan

1. Review of the first semester
2. Discussion on current issues
3. Theatre, film and current topics
4. Intercultural theories + 「教員－学生間の対話シート」の有効性の調査
5. Shakespeare local/global
6. theatre in the globalized world 1
7. theatre in the globalized world 2
8. Asian theatre in the globalized world
9. Okinawan theatre in the globalized world
10. The role of the theatre in the globalizing world
11. Global Issues
12. Presentations on individual themes 1
13. Presentations on individual themes 2
14. Review + 学習成果実感調査

★ このほか、劇場へのField Tripもおこなうが、その日時は授業開始後に発表される（学生は都合の良い日時を選ぶことができる）

事前・事後学修／Preparation and assignments

1. 事前学習：春学期までの学修体験を英語で整理した上で、口頭報告できるようにしておく。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
2. 事前学習：時事的な内容を英語で議論できるようにしておく。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

3. 事前学習：演劇・映像がどのように現在の世界情勢を反映しているか、自分の見解を整理しておく。

事後学習：授業の流れをまとめ、フィードバックをムードルなどで提出する。

4. 事前学習：演劇論や異文化交流理論に関して各自紹介できるようにしておく

事後学習：発表の流れをまとめ、フィードバックをムードルなどで提出する。

5. 事前学習：自分の選んだ演劇作品の面白さと作者の意図を英語で議論できるように準備しておく

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

6. 事前学習：選んだ課題について自分の意見をまとめる。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

7. 事前学習：選んだ課題について自分の意見をまとめる

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

8. 事前学習：アジアの演劇についての資料を読んでおく

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

9. 事前学習：配布資料を読み、指定された部分を分析しておく。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

10. 事前学習：演劇と社会について資料を熟読・要約し、自分の意見をまとめる。

事後学習：映像と字幕の関係を考えておく。

11. 事前学習：国際問題に関するニュースをまとめ、英語で議論できるように準備をする。

事後学習：授業を踏まえた上で考えをまとめる。

12. 事前学習：授業中に紹介された図書や配布資料を熟読・要約し、自分の意見を英語でまとめる。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

13. 事前学習：本演習と関連するテーマについての考えや体験をパワーポイントなどを使って発表する準備をする。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

14. 事前学習：今までで学んだことを元に、各自の見解と自分のテーマを文章化する。

事後学習：ゼミ論となるべき課題および授業外での自分の観劇レポートをまとめなおして提出する。

テキストは基本的に自分で熟読しておく必要がある。

予習・復習のそれぞれ1.5時間することが基準であるが、

ゼミ発表や課題作成には、それ以上の時間を費やす必要があると考えられる

★授業外のField tripのための予習時間も必要である。

Field tripの日時については参加者の都合を考慮した上、授業中に発表する。

授業の到達目標／Expected outcome

英語で演劇・映画・文学・文化を論じながら異文化交流について考えることのより、創造力や発信型のコミュニケーション能力を磨くとともに、社会人・国際人として常識を身につけ、翻訳や通訳案内のセンスも磨くこと。また、舞台鑑賞の習慣を身につけること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-----------|--------------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 主体性 | 【外国語学部 英語学科】 |
| ・ 発信力 | ・ 言語に関わる調査・研究・発信能力 |
| ・ 協働性・協調性 | |
| ・ 倫理性 | |
| ・ 創造性 | |

履修上の注意／Special notes, cautions

三年次のうちにWorld Theatre II とSpecialized English Studies: Guiding and Interpreting II も同時履修

することを強く推奨する。

Guiding and Interpreting 授業は英語科の選択必修のSpecialized English Studiesの一環でもあるが、事前登録をした上で、抽選があるので、事前に担当者に相談することが望ましい。どうしても三年自次で履修できない場合は、四年次で履修するよう勧める。

さらに余裕がある場合は、全学共通科目である”GJP:World Heritage Sites in Japan”の履修も勧める（春学期に履修隅の場合は秋学期は履修できない）。こちらは半数は留学生が履修する授業で、貴重な国際交流体験になるはずである。こちらでも事前登録をした上で抽選があり、倍率も高いので、履修を希望する場合は、早めに担当教員に相談することが望ましい。

評価方法／Evaluation

授業中のプレゼンテーション（30％）、授業や課外活動への貢献度（40％）最終レポート（30％）

プレゼンテーションについては、授業内の相互評価に、教員の評価が加味された上で、総合的に判断されます。Final Assignmentの評価は提出後、ムードルにコメントと共に評価が記載されます。

As participation in class activities and discussions is a very important part of the final grade, students must attend at least 2/3rds of the classes. If students do not attend more than 2/3 of the lessons, their evaluation may be 「/」.（出席回数が全体の3分の2以上ない場合は「/（出席日数不足）」の評価となる可能性があります）特別な理由がない限り、三分の二の出席は十回目の授業の時点で判断されます。

教 材／Text and materials

参考図書：)Jonah Salz (ed.) 『A History of Japanese Theatre』(Cambridge, 2016)
「シェイクスピア全集1-17」(松岡和子訳)
他、授業中に指示する本や資料

質問や相談の方法／Instructor contact

担当者の連絡先：

Office Hour: Thursday 12:00-12:50 at 第二研究室棟515(Office Room 515, Research Building 2 (near the library))

The instructor's e-mail address will be introduced on the Moodle at the beginning of the semester

Please contact me by e-mail for further questions.

その他／Others

授業時間外の活動にも参加できるように調整しておいてください